

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた

# 授業のデザイン

新学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが示されています。本紙は、改訂の趣旨を踏まえた授業の例などを示しています。各学校において、自校の年間指導計画や生徒の実態等を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる授業をデザイン（構想）するための参考資料として御活用ください。



## 中学校・外国語



### 外国語科の目標及び学習指導要領改訂のポイント

#### 1 外国語科の目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

#### 2 学習指導要領改訂のポイント

- ◇小学校における外国語活動で育まれた素地を踏まえる。
  - ・「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成。
- ◇教材について、4技能を総合的に育成するための活動に資するものとする。
  - ・題材の例示に、「伝統文化」や「自然科学」などを追加。
- ◇言語活動の充実を通じて言語材料の定着とコミュニケーション能力の育成を目指す。
  - ・言語活動の指導事項「4項目」→「5項目」（追加または再編成）とし、充実を図る。
  - ・指導する語数「900語程度まで」→「1200語程度」
  - ・年間授業時数「105時間」→「140時間」
- ◇各学校が創意工夫を生かした特色ある授業を実施する。
  - ・「理解の段階にとどめること」等の制限をなくし表現の段階まで高める指導を行う。

### 事例と関連のある本県の重点とする目標

－「指導の指針」より 栃木県教育委員会－

- 系統的・重点的な指導計画の作成
  - ・生徒や地域の実態に応じて、学年ごとの目標を定め、3学年間を通して外国語の目標の実現を図るよう指導計画を作成する。
- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるための言語活動の充実
  - ・授業のねらい、言語活動の目的等を明確に示す。
  - ・言語材料の指導については、学習段階に応じて平易なものから難しいものへと段階的に指導し、それらを繰り返し指導することで、確実な定着を図る。
- 基礎的・基本的な知識・技能を活用し、4技能を総合的に育成するための言語活動の充実
  - ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成するために、考えや気持ちを伝え合う言語活動を充実させる。

#### 【参考文献】

- ・「中学校学習指導要領解説 外国語編」 文部科学省 平成20年9月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 外国語】」 国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「指導の指針」 栃木県教育委員会 平成25年3月
- ・「とちぎの子どもの基礎・基本 問題事例集〔活用編〕 外国語」 栃木県教育委員会 平成24年1月

◇本リーフレットは栃木県総合教育センターホームページ(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>)から、ダウンロードできます。

◇問い合わせ先 栃木県総合教育センター研究調査部 TEL028-665-7204

言語材料の理解を深めその定着を図るためには、反復練習が必要です。しかし、機械的な練習などの活動に終始し、生徒の意欲が高まらない状況が見られます。そこで、生徒が進んで活動に取り組めるような話題を設定し、自分の考えや気持ちを伝え合いながら言語材料の定着を図る活動例を紹介します。

指導のねらい

ペアで互いのことを英語で伝え合いながら、言語や文化に対する理解を深められるようにする。

<学習指導要領との関連>

内容（１）言語活動 イ 話すこと（イ） 内容（２）言語活動の取扱い ア（７）（イ）

活動の例

【第１学年 「主語＋動詞」】

○ワークシートを用いて練習する。

- ① 指名された生徒（A）と教師（B）の【対話例】のような対話を聞き、活動の仕方を理解する。
- ② 教師の後に続いて練習する。
- ③ ペアになり、□で示された六つの話題について、互いに伝え合いながら、言語材料の練習をする。
- ④ ☆の部分には、関連する情報などを入れ、対話の内容がふくらむようにする。

<ワークシート>

A : What do you like?  
 B : I like ...  
 A : ...?  
 B : Yes. I like ...  
 A : Oh, you like ...  
 B : Yes. ( ☆ ).  
 A : I see.

- sports   foods   movies  
songs   games   characters

左のワークシートを用いて、  
 右のような自分に関連した  
 対話を行わせます。

【対話例】

A : What do you like?  
 B : I like movies.  
 A : Movies?  
 B : Yes. I like Tochimarukun Story.  
 A : Oh, you like Tochimarukun Story.  
 B : Yes. ☆I like Tochimarukun Adventure, too.  
 A : I see.



※生徒にとって身近な六つの話題を用いたり、相手の発話を繰り返したりすることにより、内容を伴った反復練習をして、言語材料の理解と定着を図ります。

※☆の部分については、生徒の理解の程度に配慮するなど、必要に応じて活用し、コミュニケーションへの積極的な態度の育成につなげてよいでしょう。

評価に当たって

- 「話すこと」の「言語や文化についての知識・理解」の観点により、英語で正しく話すことができるよう支援し、練習を重ねることで正確さが身に付くようにさせます。

留意点及び工夫点

- 言語材料の指導においては、意味のあるやりとりをさせながら、定着を図らせるようにするとともに自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動につなげます。
- この活動のワークシートを他の言語材料の練習に活用し、定着を図ることもできます。

(例) <第3学年 過去分詞の形容詞としての用法での活用>

A : I like movies made by ○○○ films.  
 B : Oh, you like movies made by ○○○ films.

## キーワード

書くこと 出来事や体験 考えや気持ち

「書くこと」において、これまでの指導事項を再編成し、「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと」が示されたことから、その具体的な活動例を紹介します。

## 指導のねらい

学校行事等での体験を通して、生徒自身が実際に感じたり学んだりしたことを聞き手に伝え、書いて表現できるようにする。

## <学習指導要領との関連>

内容（１）言語活動 エ書くこと（イ） 内容（２）言語活動の取扱い ア（ウ）〔言語の使用場面の例〕b

## 活動の例

### 〔第２学年 職場体験で学んだこと〕

○ワークシートに示された対話の仕方をういて、ペアで自分の体験を伝え合った内容をもとに、関連する情報を加えながら書いてまとめる。

- ① 指名された生徒（A）と教師（B）の【対話例】のような対話を聞き、活動の仕方を理解する。
- ② 教師の後に続いて練習する。その後ペアになり、互いに自分の体験したことを伝え合う。
- ③ ワークシートの下段に、対話した内容を参考にして職場体験でのことを書いてまとめる。

#### <ワークシート>

A : Where did you work?  
 B : I worked at…  
 A : Why?  
 B : Because…  
 A : What did you do there?  
 B : …  
 A : What did you learn?  
 B : …  
 A : I see.

ワークシート  
をもとに右の  
ような対話を  
行わせます。

#### 【対話例】

A : Where did you work, Akira?  
 B : I worked at 〇〇 Book Store.  
 A : Why?  
 B : Because I like reading.  
 A : What did you do there?  
 B : I cleaned the store and carried new books.  
 A : What did you learn?  
 B : The book store is useful for many people.  
 A : I see.



#### 【作文例】

Class( ) No.( ) Name : ( )

#### My Challenge

I worked at 〇〇 Book Store last week.

I like reading.

So I was very happy.

※下線部は、対話した内容にプラスして表記した部分です。

I cleaned the store and carried new books.

I think the book store is useful for many people in this town.

I learned many things from my challenge.

書く前にペアで話し合う  
ことで、自分で行ったこ  
とを思い出させ、書く活  
動につなげます。

## 評価に当たって

- 「書くこと」の「外国語表現の能力」の観点により、体験したことや感じたこと、学んだことを適切に書けているか活動の様子から見取り、必要に応じて生徒に体験を伝えるための語彙を与え、学んだことを適切に書くことができるよう支援します。

## 留意点及び工夫点

- 生徒が自分の気持ちや考えを書いて表現しやすい学校行事等を精選し、生徒の表現しようとする意欲を高めながら活動することが大切です。
- 実践に当たっては、生徒の体験した時期に応じて、年間指導計画に意図的・計画的に位置付け、系統的に書く力を高めるようにしましょう。

「読むこと」において、指導事項に新たに、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したりすることなどができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」が示されたことから、その具体的な活動例を紹介します。

指導のねらい

「読むこと」を通して得た知識や情報を、自らの体験や考えに照らして、他の技能と結びつけ既習の表現を用いて感想や意見等を述べさせることで、内容や考え方等を捉えることができるようにする。

<学習指導要領との関連>

内容（１）言語活動 ウ読むこと（オ） 内容（２）言語活動の取扱い ア（ウ）〔言語の働きの例〕d

活動の例

〔第3学年 読むことを考えた取り組み〕

○ワークシートを用いて活動を進める。

- ① 内容の正しい理解に関して、T・F（あるいはQ&A）等の教師の質問に答える。
- ② 読み手としての考えや判断を伴った理解ができるよう、内容に関連（派生）する質問に答える。
- ③ 感想や賛否について考える。

<ワークシート> ※本文は「とちぎの子どもの基礎・基本 問題事例集〔活用編〕外国語」より引用  
 Tochimaru Hamburger Class( ) No.( ) Name: \_\_\_\_\_

On December 7th, you will see a new hamburger shop in this city. Its name is Tochimaru Hamburger. It will open from 7:00 a.m. to 11:00 p.m. You can enjoy many kinds of hamburgers; cheese burgers, chicken burgers, vegetable burgers and so on. During the opening weeks, we will have a special. If you buy two hamburgers, you will get one hamburger free. A special coupon will be given to the first one hundred people who buy chicken burgers. Please come and enjoy Tochimaru Hamburger. The opening day is coming soon.

1 <内容の正しい理解> True or False

- T・F (例) ①You will see a new hamburger shop. ( ○ )  
 ②You can't enjoy many kinds of hamburgers.( × )

2 <本文に関連する理解> Questions & Answers

- Q&A (例) ①Is a new hamburger shop big?  
 → I think it is not very big. But there are many kinds of burgers.  
 ②How many hamburger shops are there in this town?  
 → There are three shops.

3 <自分の感想・賛否> Opinions

- What do you think about a special coupon?  
 生徒A: I think it's a good idea. 生徒B: One hundred coupons are too many.

本文の内容に関連する質問をすることで読み手としての考えや判断をもてるようにします。



生徒からの意見が出やすいような質問をあらかじめ用意しておくことが大切です。

評価に当たって

○「読むこと」の「外国語理解の能力」の観点により、内容やあらすじを正しく理解しているかを踏まえ、話の内容等を主体的に捉えることができているか等、学習段階に応じた見取りを適宜行い指導に生かします。

留意点及び工夫点

○「読むこと」により、単に知識や事実等を得るだけではなく、その情報等について、書き手の考えや意向に対する自身の考えをしっかりとませ、感想や賛否等を表現し合う活動を、計画的・系統的に行うことが大切です。